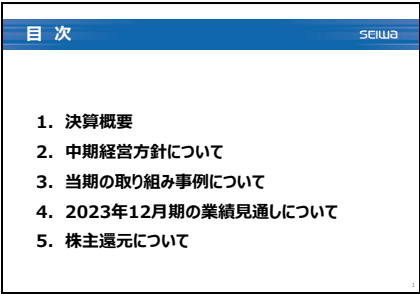

 <p>証券コード: 6748</p> <p>SEIWA 創意+革新</p> <p>2022年12月期 2023年3月3日収録 決算説明</p> <p>動画 URL : <a href="https://www.seiwa.co.jp/ir/kessan.html">https://www.seiwa.co.jp/ir/kessan.html</a> 星和電機株式会社</p>	<p>星和電機株式会社 代表取締役の増山です。 ご視聴いただき、誠にありがとうございます。</p> <p>それではただいまから 星和電機株式会社 2022年12月期 の決算説明を 始めさせていただきます。</p>
 <p>目次</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 決算概要</li> <li>2. 中期経営方針について</li> <li>3. 当期の取り組み事例について</li> <li>4. 2023年12月期の業績見通しについて</li> <li>5. 株主還元について</li> </ol>	<p>本日は</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 決算概要</li> <li>2. 中期経営方針について</li> <li>3. 当期の取り組み事例について</li> <li>4. 2023年12月期の業績見通しについて</li> <li>5. 株主還元について</li> </ol> <p>の順で説明いたします。</p>
 <p>1. 決算概要</p>	<p>それでは、2022年12月期の決算概要について 説明いたします。</p>

決算サマリー				
■ 前期末より減収増益				
■ 売上高 前期末より10.7%減少				
増収：産業用照明器具、電磁波環境対策部品				
減収：道路情報機器、トンネル照明器具				
■ 営業利益 前期末より4.3%増加				
増益：産業用照明器具および電磁波環境対策部品				
減益：道路情報機器				
	2021年12月期	2022年12月期	増減	増減率(%)
売上高	26,230	23,429	△ 2,800	△ 10.7
売上総利益	5,412	5,571	159	2.9
経常費用	3,932	4,028	95	2.4
営業利益	1,479	1,543	63	4.3
経常利益	1,445	1,575	129	9.0
株主総会承認による繰上利益	909	1,101	192	21.2
自己資本比率(%)	7.2	8.1	0.9PT	
経常利益対売上高(%)	5.0	5.4	0.4PT	
売上営業利益率(%)	5.6	6.6	1.0PT	
(注：百万円)	56%	45%		

2022年12月期の売上高は、234億2千9百万円で、前期に比べ10.7%の減少となりました。営業利益は、15億4千3百万円で前期に比べ4.3%の増加、経常利益は15億7千5百万円で9%の増加、親会社株主に帰属する当期純利益は、11億\*1百万円で21.2%の増加となりました。

売上面では、民間設備関連の産業用照明器具と電磁波環境対策部品が調達状況の改善により増収となりました。

一方、公共設備関連の道路情報機器とトンネル照明器具におきましては、半導体不足や部品の供給不足の影響を受け、減収となりました。

利益面では、民間設備関連の産業用照明器具と電磁波環境対策部品が増益となりました。

一方、公共設備関連の道路情報機器は原価低減や経費節減により利益率は改善しましたが、減益となりました。

この結果、全体では前期に比べ減収増益となりました。

セグメント別の状況 ①情報機器事業				
Information System 情報機器事業				
2022年12月期 売上貢献度 37.5%				
	2021年12月期	2022年12月期	増減	増減率(%)
売上高	12,260	8,789	△ 3,471	△ 28.3
セグメント利益	1,773	1,542	△ 231	△ 13.0
受注高	9,673	6,911	△ 2,761	△ 28.6
受注残高	9,380	7,503	△ 1,877	△ 20.0
売上総利益	半導体や部品の供給不足により一部は長納期化が避けられず生産が滞り高速道路向け、一般道路向けともに減少			
経常利益	原価低減や経費節減により利益率は改善したが、前期に比へ減収			
受注残高	期中の受注高の減少により受注残高は減少			

セグメント別の状況についてご説明いたします。

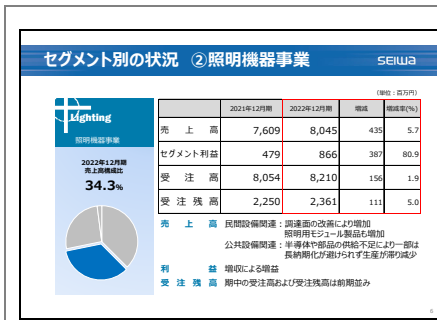
情報機器事業全体の売上高は87億8千9百万円で、前期より28.3%の減少となりました。

セグメント利益は15億4千2百万円となりました。原価低減や経費節減に努めましたが大幅な減収により減益となりました。

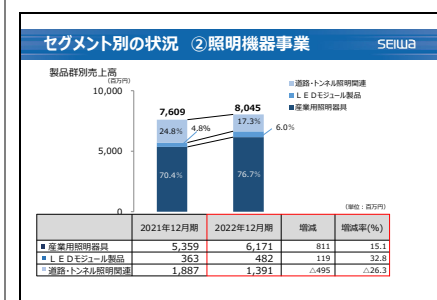
受注残高は期中の受注高の減少により、前期と比べ20%の減少となりました。

セグメント別の状況 ①情報機器事業				
市場別売上高				
	2021年12月期	2022年12月期	増減	増減率(%)
■ 高速道路向け	8,123	5,874	△ 2,248	△ 27.7
■ 一般道	2,578	1,576	△ 1,001	△ 38.8
■ 地方自治体向け	1,558	1,337	△ 221	△ 14.2

売上高の内訳は、主力製品である道路情報表示システムにおいては半導体や部品の供給不足に対し設計変更などの対応を行いました、一部で長納期化が避けられず生産が滞り、高速道路向け、一般道路向けともに売上高が減少しました。



つぎに照明機器事業です。  
事業全体の売上高は  
80億4千5百万円で、  
前期より5.7%の増加となりました。  
セグメント利益は8億6千6百万円となりました。  
  
期中の受注高と受注残高は、前期並みとなりました。

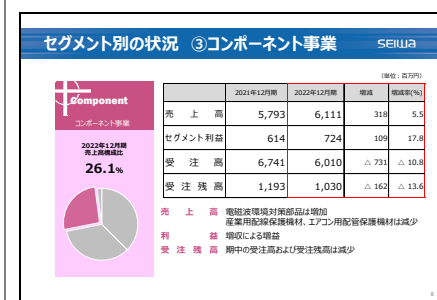


売上高の内訳は、  
民間設備関連の産業用照明器具においては、  
下半期より部品の供給不足などが改善に向かい、前期に比べ増加しました。  
また、照明用モジュール製品も増加しました。

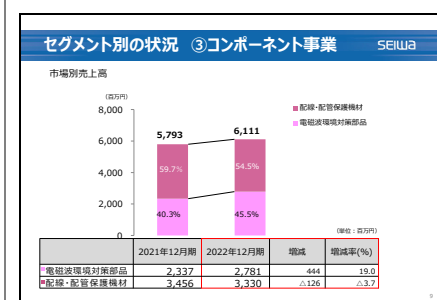
産業用照明器具関連の売上高は  
61億7千1百万円で、前期に比べ15.1%増加しました。

公共設備関連においては、  
情報機器事業と同様の影響を受け、減少しました。

道路・トンネル照明関連の売上高は  
13億9千1百万円で、前期に比べ26.3%減少しました。



最後に、コンポーネント事業です。  
事業全体の売上高は61億1千1百万円で、  
前期より5.5%増加となりました。  
  
セグメント利益は7億2千4百万円となりました。



売上高の内訳です。  
電磁波環境対策部品の売上高は前期に比べ増加となりましたが、  
配電盤や機械装置に用いる産業用配線保護機材とエアコン用の配管保護機材は減少しました。

電磁波環境対策部品の売上高は27億8千1百万円で前期と比べて19%増加しました。  
配線・配管保護機材の売上高は33億3千万円で、前期と比べて3.7%減少しました。

BSの状況		SEIWA	
単位：百万円			
	2021年12月期	2022年12月期	増減
資産	30,143	28,308	△1,835
流動資産	21,582	20,238	△1,343
固定資産	8,561	8,069	△491
負債	16,940	14,197	△2,743
流動負債	15,616	12,524	△3,091
固定負債	1,324	1,672	348
純資産	13,202	14,110	907
純資産比率	43.8%	51.4%	8.6%
総資産	30,143	28,308	△1,835
<自己資本比率>	43.7%	49.7%	6.0PT

■ 増 減 (減少) 売掛債権の回収による受取手形及び売掛金の減少、投資有価証券の売却  
 ■ 負 増 (減少) 短期借入金の返済  
 ■ 純資産 (増加) 親会社株主に帰属する当期純利益の計上により利益剰余金が増加

それでは、連結貸借対照表について、概要を説明いたします。

2022年12月期の流動資産は

202億3千8百万円で前期に比べ13億4千3百万円減少しました。

主な原因は、

売掛債権の回収により受取手形および売掛金が減少したことです。

固定資産は80億6千9百万円で4億9千1百万円の減少となりました。

主な理由は、投資有価証券の売却です。

流動負債は125億2千4百万円で30億9千1百万円の減少となりました。

主な理由は売掛債権回収による入金により短期借入金の返済を行ったことです。

固定負債は16億7千2百万円で3億4千8百万円の増加となりました。

主な理由は

長期運転資金として長期借入れを行ったことです。

純資産合計は141億1千万円で

9億\*7百万円の増加となりました。

主な理由は

親会社株主に帰属する当期純利益の計上による利益剰余金の増加によるものです。

CFの状況		SEIWA	
単位：百万円			
	2021年12月期	2022年12月期	増減
営業キャッシュフロー	47	4,498	4,451
投資キャッシュフロー	1,496	1,661	165
財務キャッシュフロー	631	952	△321
現金及び現金同等物 期末残高	2,191	3,357	1,166

■ 営業キャッシュフロー 売上債権の減少等により44億98百万円の獲得  
 ■ 投資キャッシュフロー 有形固定資産及び無形固定資産の取得により1億31百万円の支出  
 ■ 財務キャッシュフロー 短期借入金の返済等により32億81百万円の支出

連結キャッシュフローについて、概要を説明いたします。

営業活動の結果、

獲得した資金は44億9千8百万円となりました。

これは主に税金等調整前当期純利益の計上と、売上債権の減少です。

投資活動の結果、使用した資金は

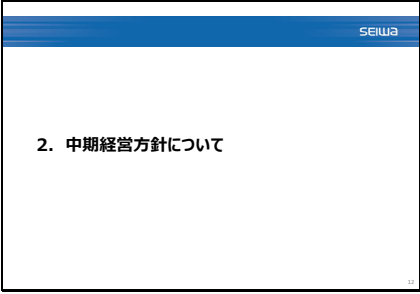
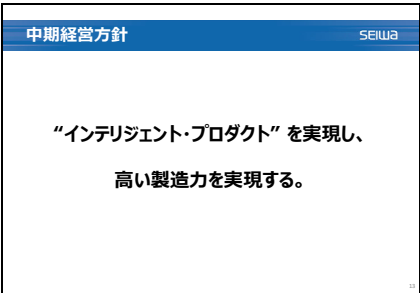
1億3千1百万円となりました。

これは主に有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出です。

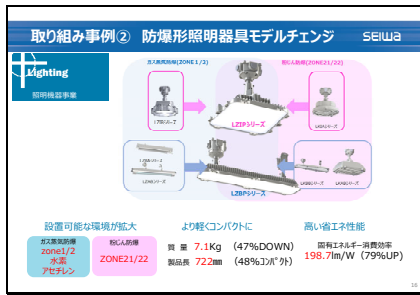
財務活動の結果、

使用した資金は32億8千1百万円となりました。

これは主に短期借入金の返済です。

 <p>2. 中期経営方針について</p>	<p>続きまして 中期経営方針について説明いたします。</p>
 <p>“インテリジェント・プロダクト”を実現し、 高い製造力を実現する。</p>	<p>中期経営方針は 「“インテリジェント・プロダクト” により、高い製造力を実現する。」です。 そのため、 人財開発部を中心とした 高いスキルを備えた人財の育成と教育。 そして情報システムの最適化と 活用環境整備によりスマートなモノづくりを目指します。</p>

	<p>それでは、当期の各事業の取り組み事例について説明いたします。</p>
	<p>照明機器事業の取り組みとして、東北自動車道の自発光視線誘導灯の納入について説明いたします。</p> <p>2021年1月に東北自動車道でホワイトアウトが原因の多重事故が発生し死傷者及び長時間にわたる立往生が発生しました。</p> <p>現場には、視線誘導灯が設置されていましたが、ホワイトアウトの状況下では全く認識できない状況でした。</p> <p>当社は、お客様へ高輝度の視線誘導灯の提案を行い、大衡(おおひら)ICから築館(つきだて)IC間で高輝度自発光視線誘導灯を325台納入いたしました。</p> <p>提案の際に、お客様よりホワイトアウトの状況下での見え方検証について相談があり、当社の本社工場内でスモークマシンを使い疑似的にホワイトアウト状態を再現しお客様参加のもと、様々な条件下で輝度を変えて見え方を確認し、設置場所、視界状況、時間帯別に適正な輝度を決定しました。</p> <p>今後は、視線誘導灯だけではなく、スピーカーや道路情報板などの連動も含め安全走行を支援するシステムを提案してまいります。</p> <p>これからも、製品の開発、納入を通して道路の安全走行に貢献してまいります。</p>



次に、照明機器事業

民間設備関連の取り組み事例として、  
防爆形照明器具のモデルチェンジについてご説明いたします。

この度、大幅モデルチェンジを実施した防爆形LED 灯器具  
「LZIP」「LZBP」シリーズの開発が完了しました。

当製品はアセチレンや水素など様々な爆発性ガスや粉じん危険場所などへ、  
複数の既存機種で対応していましたが、お客様の設置場所による器具選定  
の手間を減らせるよう、これらのシリーズに集約しています。

また従来から「重い」「長い」という防爆照明のイメージを覆す  
業界最軽量とコンパクトサイズにより、施工作業の負担を軽減し、作業時間短  
縮とコスト削減に貢献いたします。

さらに高い固有エネルギー消費効率により、消費電力の削減だけではなく、  
社会課題であるCo2排出量の削減にもつながります。

これからも照明機器事業では、  
安心・安全・快適・省エネルギーで「光」によるソリューションを展開し、  
付加価値の高い製品とサービスを提供いたします。



次に、コンポーネント事業の取り組みとして、環境型対応製品のご紹介をいた  
します。

電磁波環境対策製品からハロゲンを含まない材料を採用した環境型対応ガ  
スケットを発売しました。

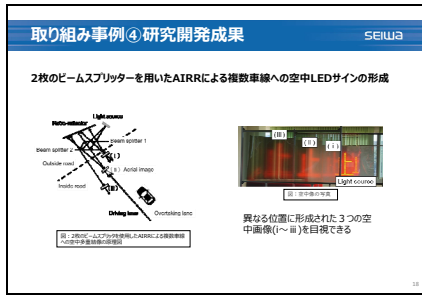
近年、環境汚染や健康被害の観点から、欧米を中心とした化学物質に対する  
規制が厳しくなりつつあり、従来製品で使用していた難燃剤に含まれるハロゲ  
ン系材料がカナダの特定有害物質禁止規則の候補物質となったことにより、  
当該物質を含まない製品の開発に至りました。

当製品はハロゲンフリーで既存のガスケットと同等の抵抗値を維持しており、  
基板や、筐体間のグランド対策や隙間部分のシールド対策に有効となってお  
ります。

次に配線保護機材から脱プラスチックタイプのUDプロテクタを紹介いたしま  
す。当製品は自然由来の成分を50%以上含む材料を使用しており、環境省  
が取り組んでいる「プラスチック・スマート」に参加しています。

石油由来プラスチックの使用量を抑え、焼却時のCo2排出量を削減します。

今後も環境と健康に配慮した製品づくりを意識し、お客様のニーズに応える製  
品を提供してまいります。



続きまして、  
研究開発の取組事例について報告いたします。

現在、当社と国立大学法人宇都宮大学は、空中表示の共同研究に取り組んでいます。

道路情報提供の新しい形としてAIRR(再帰反射による空中結像)技術を応用し、2枚のビームスプリッターを用いた多重反射により複数の空中像を表示させる空中LEDサイン形成装置を試作し、空中像の実用化に向けて取り組んでまいりました。

この研究は、新たな交通情報提供の実現可能性を探求するもので、成果として国際学術誌「Optical Review」(オプティカル レビュー)に本論文が掲載されました。

今後も当社は要素技術の創出に努めてまいります。



取り組み事例の最後として、  
社会貢献活動についてご報告いたします。

当社従業員で活動しているイルミネーション部は、地元イベントの作品出展や、「イルミネーションづくり」を広める活動を行っております。

地元の城陽市で毎年12月に開催されているイルミネーションイベント「Twinkle JOYO」では大型作品を制作し、来場者を楽しませています。

そのノウハウを生かし、  
工事施工地域の小学校でイルミネーション教室を実施しています。  
イルミネーション教室ではLEDの特性を学びながら、  
安全で楽しいイルミネーションづくりが体験できると、好評を博しています。

また、施工地域の活性化のために、「鳴子温泉駅前イルミネーション」イベントに鳴子温泉イメージキャラクター「なる子ちゃん」のイルミネーションボードを制作・寄贈しました。

その活動に対し、鳴子温泉観光協会様より感謝状をいただきました。

今後とも、地域に密着した貢献活動を行い、  
社会と共存共栄を図り、ともに進化・成長し続ける会社でありたいと思えます。

取り組み事例の紹介は以上です。



SEIWA

4. 2023年12月期の業績見通しについて

それでは、  
2023年12月期の業績見通しについて  
ご説明いたします。

2023年12月期業績見通し

SEIWA

■ 売上高 250億円  
■ 利益 営業利益 16億5千万円 経常利益 16億8千万円  
親会社株主に帰属する当期純利益 11億5千万円

	2022年12月期	2023年12月期 予想	増減	増減率(%)
売上高	23,429	25,000	1,570	6.7
情報機器	8,789	10,000	1,210	13.8
照明機器	8,045	8,350	304	3.8
LEDトンネル	5,131	6,250	1,119	21.8
その他	483	400	-83	-17.2
営業利益	1,543	1,650	106	6.9
経常利益	1,575	1,680	104	6.7
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,101	1,150	48	4.4

2023年12月期の業績見通しは  
売上高は、250億円を予想しております。  
利益に関しましては、営業利益 16億5千万円、経常利益 16億8千万円を  
予想しております。  
  
また親会社株主に帰属する当期純利益は、  
11億5千万円を予想しております。

2023年12月期業績見通し

SEIWA

公共設備関連：公共事業の継続や政府のカーボンニュートラル施策を背景とした照明器具のLED化促進を予想  
民間設備関連：省エネ施策としてのLED化および老朽化更新等の需要は引き続き堅調に推移する見込み

事業別の見通しと方針

**Information System**  
情報機器事業  
見通し：国土強靱化やインフラ整備のための公共事業の継続  
方針：新製品の受注確保に加え更なる受注の確保  
製販連携による長納期化の解消と効率的な生産と品質の確保

**Lighting**  
照明機器事業  
見通し：公共設備関連：政府のカーボンニュートラル施策を背景に照明器具のLED化が促進  
方針：LEDトンネル照明器具の新製品を中心とした提案営業活動による  
受注の確保  
民間設備関連  
見通し：省エネ施策としてのLED化および老朽化更新等の需要が堅調に推移  
方針：LED照明器具の新機種投入によるシェア拡大

**Component**  
LEDコンポーネント事業  
見通し：為替の変動等による原材料価格の高騰  
方針：電磁波環境対策部品の新製品の投入や新市場の開拓

全事業においてコスト削減と生産性の向上による収益性の改善を図っていく

続きまして各事業における見通しと方針について説明いたします。

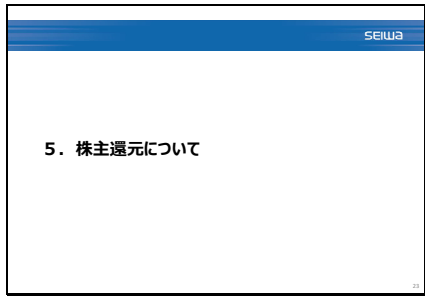
情報機器事業では売上高は100億円を予想しております。  
国土強靱化やインフラ整備のための公共事業の継続が予想されるため、  
期初の受注残高に加えて更なる受注の確保を目指し、製販連携による長納  
期化の解消と効率的な生産および品質の確保に努めてまいります。

照明機器事業では売上高は83億5千万円を予想しております。  
公共設備関連においては、政府のカーボンニュートラル施策を背景に  
LEDトンネル照明器具の新製品を中心とした提案営業活動により受注の確保  
に努めてまいります。

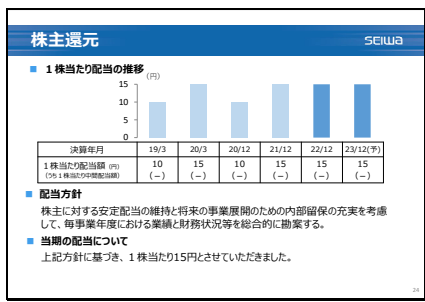
民間設備関連においては  
省エネ施策としてのLED化および老朽化更新等の需要は  
引き続き堅調に推移する見込みであるため  
LED照明器具の新機種投入により市場のシェア拡大に努めてまいります。

コンポーネント事業では売上高は62億5千万円を予想しております。  
為替の変動等による原材料価格の高騰が懸念されますが、  
電磁波環境対策部品の新製品の投入や  
新市場の開拓に努めてまいります。

利益面につきましては、引き続き全事業において  
コスト削減や生産性の向上による  
収益性の改善に努めてまいります。



最後に、  
株主還元について説明いたします。



当社は  
株主に対する安定配当の維持と、  
将来の事業展開のための  
内部留保の充実を考慮して、  
毎事業年度における業績と財務状況等を  
総合的に勘案することを方針としております。

2022年12月期の配当は、  
この方針にもとづき、  
1株当たり15円といたしました。

2023年12月期の配当は、  
1株15円を予定しております。

問合せ先・免責事項 SEIWA

## 星和電機株式会社

TEL: 0774-55-8181  
FAX: 0774-58-2034  
E-mail: info@seiwa.co.jp  
https://www.seiwa.co.jp

当資料は、2023年3月31日時点の将来に関する前提・仮定に基づき予測が含まれています。世界経済・政治状況・為替変動等に関するリスクや不確定要素により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大による影響は不確定要素が多く、今後想定外の状況となった場合には将来の業績に影響を与える可能性があります。

以上を持ちまして、  
星和電機株式会社  
2022年12月期 決算説明を  
終了いたします。

ご視聴いただき、まことにありがとうございました。